

河川のモニタリング調査
(平成24年度調査結果、25年度調査計画)

平成25年7月

環境科学センター

1 調査の目的

河川のモニタリング調査（河川の流域における動植物等調査）では、河川環境を指標する水生生物、河川と関わりのある陸域生物、生物の生息環境及び森林管理と密接に係る窒素、SS（浮遊物質）等の水質について調査を行い、将来の施策展開の方向性について検討するための基礎資料を得るとともに、施策の効果として予想される河川環境の変化を把握することを目的とする。

なお、本調査は、マクロ的な視点で河川環境を把握するものであり、個々の河川対策の実施効果を検証するための調査については、それぞれの事業等で実施するものとする。

また、河川のモニタリング調査（県民参加型調査）では、県民に対して、「かながわ水源環境保全・再生事業」について普及啓発を行うとともに、調査によって得られたデータを解析することにより、河川のモニタリング（河川の流域における動植物等調査）の結果を補完することを目的とする。

2 調査対象河川

相模川水系及び酒匂川水系

3 河川モニタリング調査（県民参加型調査）

県民から参加者を募って調査を実施した。なお、調査に当たっては、データの精度を確保するため、専門家による調査方法及び生物の同定についての講習会を行った。

（1）調査地点及び調査時期

相模川、酒匂川両水系の任意の地点及び時期に調査を行った。

（2）調査項目

動植物については、底生動物、魚類、水生植物及び河原植物とし、水質については、水温、COD（パケットテスト）、導電率、pH、ゴミの量、透視度、川底の感触、においとした。

（3）調査方法

動植物調査については、環境科学センター作成の調査マニュアル（平成19年度作成）に基づいて行った。その他の指標については、国土交通省の「今後の河川水質管理の指標項目（案）」によった。

4 調査結果

（1）応募人数

個人と団体（2団体）で合計84名の応募があった

（2）講習会等

次のとおり実施し、延べ149名が参加した

調査説明会：	3回	延べ26名参加
現地講習会：	5回	延べ29名参加
室内講習会：	3回	延べ28名参加
講座：	2回	延べ61名参加
意見交換会：	2回	延べ5名参加

（3）調査結果

調査は延べ16地点で行われ、水質、底生動物、魚類、植物等の調査結果が提出された。

ア 水質調査結果

水質の評価項目とランクを表1に、水質の調査結果を図1に示す。




12 地点について調査結果が提出され、うち 3 地点が A ランク、7 地点が B ランク、2 地点が C ランクであった。

イ 動植物調査結果

第 1 期の調査で得られた平均スコア値（水質、護岸、河畔、河川形態等の総合的な河川環境の評価指標）を、今回の調査結果で補完した分布図を図 2 に示す。調査が実施された 16 地点のうち 10 地点において、定点の調査地点以外の地点における平均スコア値を得ることができた。

山間地の源流域及び上流域では 7.0 以上地点が多く、総合的に良好な河川環境が維持されており、中下流域では 7.0 未満の地点が多く、ばらつきが大きくなっていた。

表 1 水質の評価項目とランク

ランク	説明	ランクのイメージ	評価項目と評価レベル			
			透視度 (m)	ゴミの量	水におい	川底の感触
A	顔を川の水につけやすい		100 以上	川の中や水際にゴミは見あたらない。または、ゴミはあるが全く気にならない。	不快でない	不快感がない
B	川の中に入って遊びやすい		70 以上	川の中や水際にゴミは目につくが、我慢できる。		ところどころヌルヌルしているが不快ではない
C	川の中には入れないが、川に近づくことができる		30 以上	川の中や水際にゴミがあって不快である。	不快なおいを感じる	ヌルヌルして気持ちが悪い
D	川の水に魅力がなく、川に近づきにくい		30 未満	川の中や水際にゴミがあってとても不快である。	とても不快なおいを感じる	



現地講習会風景



室内講習会風景

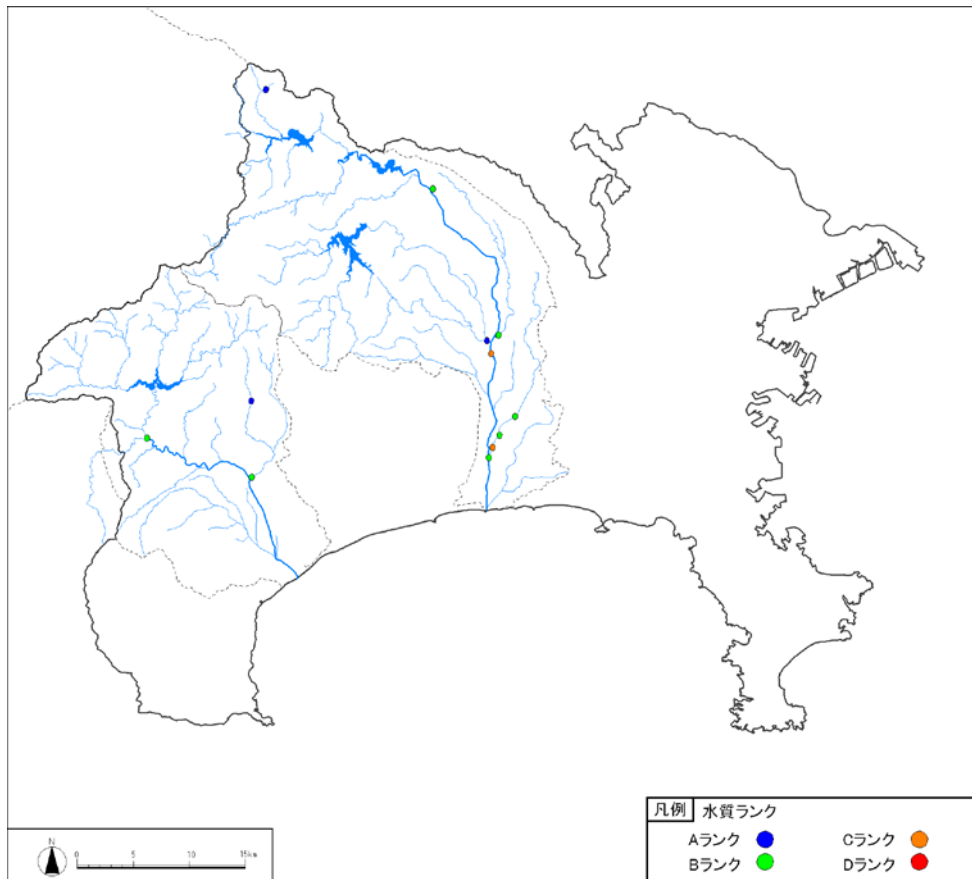


図1 水質調査結果

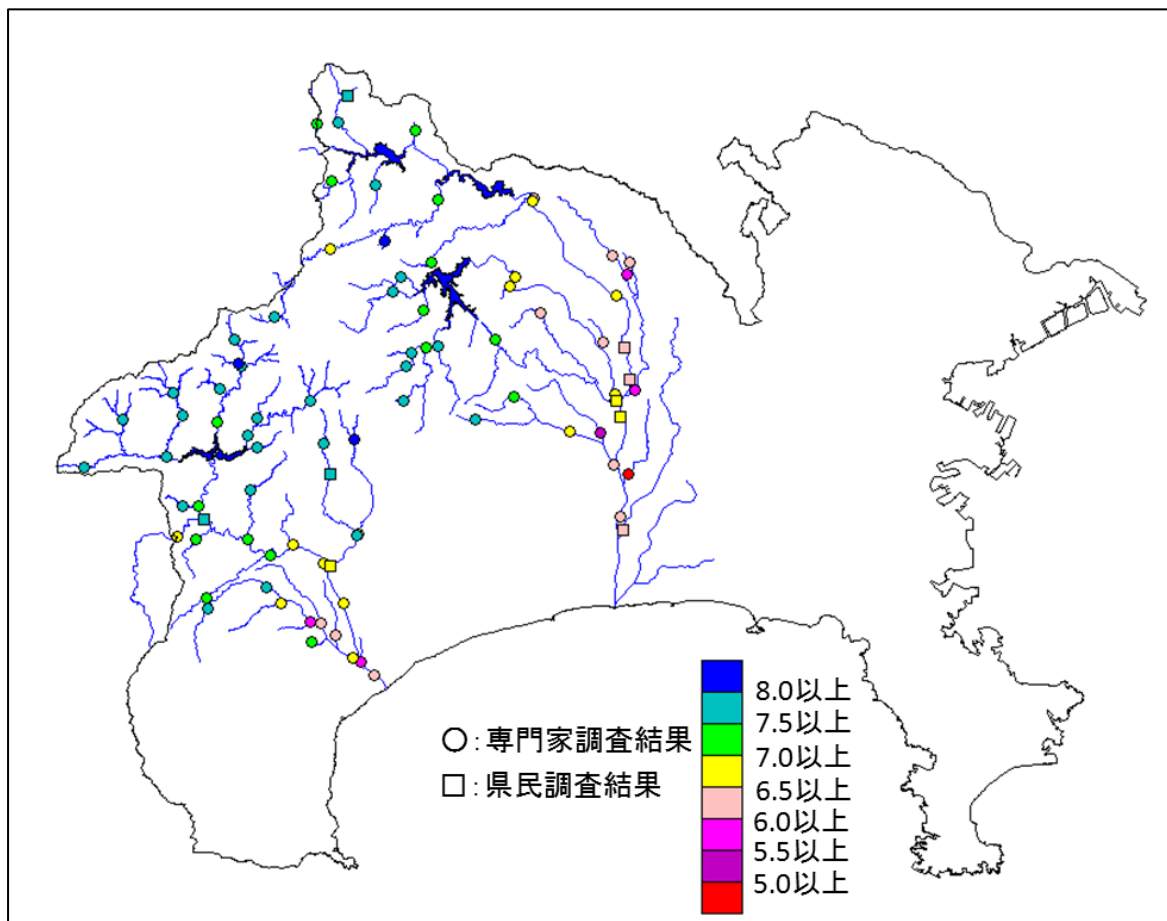


図2 第1期調査結果を補完した平均スコア値の分布図

5 平成 25 年度の調査計画

(1) 河川のモニタリング調査（河川の流域における動植物等調査）

平成 25 年度は、相模川水系において、専門業者への委託により調査を実施し、結果のとりまとめ及び解析を行う。なお、調査地点及び調査項目は第 1 期調査と同じ条件とする。

また、平成 26 年度に実施予定の酒匂川水系における調査の準備として、第 1 期（平成 21 年度）に調査を実施した地点（40 地点）の現地の状況を確認する。

(2) 河川のモニタリング調査（県民参加型調査）

平成 25 年度は、専門業者への委託により、平成 24 年度と同様の内容で調査を実施する。なお、県民調査員に対して、これまで平均スコア値が得られていない空白地点における調査を依頼するとともに、より精度の高い平均スコア値を算出することを目標として、現地講習会及び室内講習会を実施する。